



市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えします。☎秘書政策課 ☎ 36-7117

今月のテーマ 4月1日から静岡地域「消防救急広域化」がスタートします！

想定される南海トラフ巨大地震をはじめ、大規模・多様化する災害から住民一人ひとりの命と財産を守るためには、さらなる消防体制の強化・充実が必要であると考えてきました。

少子高齢化や人口減少、出動件数の増加、災害の大規模化、消防需要の複雑・多様化など、消防活動を取り巻く社会状況は、近年大きく変化してきています。また、現場では「救急・救助業務の高度化」や「初動体制の強化」のために現場要員の拡充が求められ、加えて大規模災害や特殊災害への対応に備えるなど、組織全体のレベルアップが求められるようになりました。

こうした背景のなか、静岡地域（島田市・静岡市・牧之原市・吉田町・川根本町）は、さまざまな協議を重ねた結果、3市2町で新たな消防体制を整備することに合意しました。



広域水難救助訓練

広域化により、管轄人口約90万人、消防職員1,000人規模の消防本部が誕生します。多種多様化している災害への対応力がさらに強化され、より一層の住民サービス向上につながるものと期待しています。

具体的な広域化の実施方法は、島田市・牧之原市・吉田町・川根本町が静岡市に消防事務を委託する方式と

なります。「委託したらすべてお任せなのか」と危惧されるかもしれませんが、市内に大規模災害が発生した場合は、島田市長が災害発生時初動から指揮命令を担い、静岡地域性を踏まえた山岳救助訓練市消防局職員が市の災害対策本部員として従事することになりますのでご安心ください。



地域性を踏まえた山岳救助訓練

また、首長間のホットラインはもとより、年3回は各首長が集まり、現状と課題について協議を続けていくことになっています。

市民の皆さんからは「119番通報を静岡市消防局で受信して島田の土地勘がわかるのか」というご心配もいただきますが、通報と同時に通報場所がモニターに映し出される上、島田市消防本部からもすでに6人の消防職員が指令センターで業務に就いていますのでご安心ください。

広域化後は、災害が発生した市町の消防署だけでなく、一元的な指揮の下で、3市2町の消防署からも必要な数の消防車両などが同時に出動することになり、早期に効果的な消防活動を展開できます。

また、消防ヘリコプターや特殊災害対応車両などを活用することで、林野火災、水難事故、大規模災害などにも幅広く対応できるようになりますので、ご理解ご協力のほどお願い申し上げます。

復興「山田町」

島田市は、岩手県山田町に職員を派遣するなど、復興を応援しています。

岩手県山田町から、私たち「国際ソロプチミスト島田」に、写真とともに御礼のお便りが届きました。

東日本大震災後、いち早く山田町へ職員を派遣した島田市の行動に同調し、私たちも岩手県内の国際ソロプチミストを訪れて交流が始まりました。

昨年は、認証30周年奉仕事業の一環として、山田町内に防犯灯3基を寄贈。きっかけは、当クラブの会員が現地の保育園を訪れたときに耳にした「少しでも明るい道が

あったら」という町職員の声でした。その切実な願いに何かお手伝いできたらとの思いから、防犯灯設置への援助を申し出ました。

防犯灯に照らされた道を歩む皆さんの笑顔を想像し、私たちもうれしく思っています。（大塚弘子さん／国際ソロプチミスト島田）

